



平成27年9月17日

新人工舌装置を開発し「夢の会話プロジェクト外来」開設

岡山大学歯学部、大学院医歯薬学総合研究科（歯）は7月15日、医歯工連携によるプロジェクト「岡山『夢の会話プロジェクト』」を設立。9月1日から、岡山大学病院に「夢の会話プロジェクト外来」を開設し、医歯工連携で会話の改善に取り組んでいます。

プロジェクトの代表を務める同研究科の小崎健一教授は自身が昨年舌がんを発症し舌垂全摘（舌の大部分の切除）手術を受けました。患者自身が歯科医師であるため専門知識を利用した詳細かつ正確な機能観察が可能となり、世界初の人工舌装置が実現。さらに医歯工の連携により、発話音声の波形処理等で発話の明瞭度が格段に向上することがわかりました。本プロジェクトは会話明瞭度の改善への取り組みを進めていきます。

本学歯学部、大学院医歯薬学総合研究科（歯）は、舌がん等で舌の大半を失った人のために新しい人工舌装置を開発し、実用化に成功しています。この新しい治療法をさらに進めるため、医歯工連携で「岡山『夢の会話プロジェクト』」を設立。岡山大学病院では治療を行う「夢の会話プロジェクト外来」が9月から診療を開始しました。

舌がんによって舌を部分的に切除した場合、残っている自分の舌の量が多ければ、これまでのPAP（舌接触補助床）という義歯のような装置を用いることで会話がある程度できるようになります。しかし、舌垂全摘（舌の大部分の切除）手術を受けた場合には、どうしても出せない音が存在し会話によるコミュニケーションが困難になる場合があります。

今回、偶然に口腔外科医の経歴を持つ歯科医師である小崎教授が岡山大学病院にて舌垂全摘手術を受けたことにより、患者自身の口腔機能に関する知識を背景とした専門的かつ詳細な機能観察報告が時々刻々得られることとなりました。これによって、新しい人工舌装置の基本構造が世界で初めて考案され、その臨床応用が実現しました。また、岡山大学工学部、医学部との連携もはじまり、医歯工連携としての会話明瞭度の改善への取り組みが進んでいます。

<お問い合わせ>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

咬合・有床義歯補綴学分野内

岡山「夢の会話プロジェクト」事務局

教授 皆木 省吾 助教 川上 滋八

(FAX番号) 086-235-6689